

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	59	学校名	高山工業高等学校
------	----	-----	----------

学校教育目標 (教育方針)	確かな学力、健やかな身体、豊かな心を育み、社会の変化に対応可能なゆるぎない知識や技術で、地域の将来を担うエンジニアリーダーを育成します。		
社会的役割等 (スクール・ミッション)	飛驒の匠の技術を支える高校として ものづくりの基礎基本や深い教養を身に付け、地域と連携・協働した実践的な学びを通して 豊かな人間性を持ち、地域産業に貢献できる人材の育成を目指す学校		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 自信と誇りを身に付け、自分で考えて行動し、向上心を持って技術で地域社会を支える生徒 他者を尊重し他者と協働して、良好な人間関係を築き、社会から信頼される生徒 地元を愛し、積極的に課題解決に取り組み、地域や社会に貢献できる生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 課題を発見し解決する力を育成するための、「基礎的・主体的」な学びの推進 地域素材や地域資源を生かし、地域と連携した「体験的・実践的」な学びによるキャリア教育の充実 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、ものづくりを通じた専門的な学習による「先進的・探究的」な学びを実現するカリキュラムの編成と、個に応じたきめ細やかな指導の実施 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりに興味があり、仲間と協力しながら共に知識を深め技術を高める意欲のある生徒 自ら将来を切り拓く目標を探り、その実現に向かって積極的にチャレンジする生徒 専門性を生かした地域と連携した活動、生徒会活動や部活動等に積極的に参加し、活気ある学校を築こうとする意欲のある生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 専門的な知識や技術で地域に貢献する専門的職業人に必要な、基礎学力の確実な定着 ICTを効果的に活用した、個別最適な学び・授業改善の実践 個に応じた共感的な指導及び外部と連携・協働した組織的な支援による、より良い人間関係を構築できる生徒の育成 「ものづくり」を通じた地域連携活動の推進と、地域と一体となった専門的職業人の育成 本校の特色や魅力を高める学校運営 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> 自信と誇りを身に付けた将来の地域産業を担う専門的職業人育成のため、地域や産業界と連携した活動を推進する。 地域に工業高校の特色と魅力を発信し、更に地域に必要とされる学校を目指す。 教職員の資質・指導力の向上に資する研修を充実するとともに、働き方改革、働きやすい職場づくりを推進する。 	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した個別最適な学びによって、学習意欲を高め主体的な学習態度を育成する。 少人数・習熟度別授業の実施や、学習状況や進路に応じた教科指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 地域連携による多様な課題解決学習によって、協働的・探究的な学びを推進する。 	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のコミュニケーション能力や自己表現力等の人間関係形成能力を育成する。 教育活動全般を通して規範意識を高め、豊かな心や望ましい道徳性、自己指導力を涵養する。 発達状況や特性に応じた指導に努め、外部の専門機関等と協働し、充実した生徒支援を実施する。 	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 体験的・実践的な活動を通じて、自己の能力・適性について理解を深めるキャリア教育を推進する。 外部資源を活用した工業の高い専門性を育む教育を推進し、将来の産業を担う専門的職業人を育成する。 多様な進路実現能力に対応した支援を推進する。 	

年度目標 [数値目標]				年度末評価(自己評価) ○成果 ▲課題 □目標達成 ■目標未達成				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A, B, C, D	成果と課題	総合 評価 A, B, C, D	
学校経営	地域資源の活用や、産業界と連携した実践的・体験的な教育活動	13	施策Ⅱ-13 地域の担い手総合戦略事業の実施状況 生徒アンケート 2 [95%]	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が商品開発・製造・販売・改善を行うプロジェクト事業 (通年実施) ものづくり体験をサポート (学校・地域) 外部人材や施設等の積極的活用による学力向上 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の協働性・共感性等が向上。更に強化させた力について気づきを得た 最先端の学びを通じて視座の高まりと共に以降の学習意欲向上に繋がった 生徒アンケート 2 [90%] 特別活動における探究的視点にスポットライトを当てる 	B	
	将来を見据えた魅力あるカリキュラムの開発	20	施策Ⅳ-20 定員充足率 [100%]	<ul style="list-style-type: none"> 総合工学科群募集に向けた教育課程の作成 (幅広い工業知識の習得と専門性の担保)、学科選択の方法検討、効果的な学校行事開催に向けた協議 独自選抜の実施に向け校内基盤の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い工業知識の習得から深い専門教育へのスムーズな移行が準備できた スクールポリシーに基づく独自選抜を円滑に実施できた 未達成 		
	新聞等の報道機関や、リーフレットを活用した多様な広報活動	14	施策Ⅱ-14 新聞等の掲載数	新聞等の掲載数	<ul style="list-style-type: none"> 新規の活動や学校行事について報道を依頼 リーフレットを用いた広報活動の実施 広報誌「活力ある高工」作成、中学校配付 活躍する生徒の様子や行事をHPに掲載 	B		<ul style="list-style-type: none"> 中学校別高校説明会、中学校訪問、合同高校説明会等で入試情報を提供した 掲載生徒の自己有用感が醸成できた 卒業後の活躍を各方面に情報提供
	働き方改革の意識向上と働きやすい職場環境の整備	27	施策Ⅳ-27 時間外在勤の減少 環境改善件数	時間外在勤の減少 環境改善件数	<ul style="list-style-type: none"> 時間外在勤時間の多い教員に対し毎月管理職から聞き取りを実施 生徒・保護者と教員間の連絡システム「すぐる」の積極活用 	B		<ul style="list-style-type: none"> 状況把握と業務の標準化に繋がった アンケートのデジタル化等で働き方改革が推進 時間外在勤等時間の減少 環境改善件数 10件
学習指導	課題解決を多面的・多角的に分析、検討、提案できる能力のための、基礎的な知識・技能の習得	4	施策Ⅰ-4 スタディーサプリ活用状況 授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方を統一し、目標やポイントの提示で一話先結型授業を展開した 就職試験対策授業に対し「スタディーサプリ」のコンテンツを利用した 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート (1⇒2回目) ほどの項目においても肯定的意見が増えた 「スタディーサプリ」長期休業課題の有効性を更に高め、学力向上に繋がる学び方を示す目的で教員の初期支援を位置付ける 	B	
	学習支援サービスやステップアップ講座、ハイレベル講座等の個別最適な学習の実施	9	施策Ⅱ-9 到達度テスト状況 授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 「スタディーサプリ」の授業外利用が増加 (補充・進学補習・朝学習・LHR・受験勉強) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ハイレベルから基礎まで段階別教材の効果が徐々に表れてきている 離脱大学志望者に対する低学年からの活用推奨と教員からのチーム支援 		
	課題研究を中心とする、地域と連携・協働した探究活動の推進	4	施策Ⅰ-4 卒業作品展アンケート	卒業作品展アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の授業において地域商店街発展や児童の交通安全を目的とした探究活動を推進 部活動 (工業技術部) において地域活性化に貢献するベンチや飾り棚等を製作 	A		<ul style="list-style-type: none"> 探究的に学び、ものづくりの喜びを味わうことができた 地域に喜ばれ、工業人としての充実感を感じるとともに交流を深めた
	公開授業・研究授業・職員研修の充実と、指導と評価の一体化等による学習・指導方法改善の推進	8	施策Ⅱ-8 研修回数や参加状況 授業アンケート 生徒アンケート 1 4 [95%]	研修回数や参加状況 授業アンケート 生徒アンケート 1 4 [95%]	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間 (年2回)、高校教育課訪問や経年研修を主とする研究授業を実施 学習指導委員会が学習指導上の課題を教職員で共有し対応 	B		<ul style="list-style-type: none"> 授業研究の実施回数が増え、授業の質の向上に繋がった 生徒アンケート 1 4 [84%] 授業開きにおけるシラバス (評価方法) を用いた丁寧な説明
生徒指導	挨拶活動、集団行動、身だしなみ自己チェック等による自己指導能力の育成	3	施策Ⅰ-3 実施回数・状況 生徒アンケート 18 [95%]	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行 全職員による登校指導の実施 身だしなみチェック「高工ウォーキング」の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の気づきと主体性を育む身だしなみ確認の場を設定できた 生徒アンケート 18 [88%] 課題を抱える生徒との対話や支援 	B	
	演劇ワークショップ、防犯講話等の外部指導者の活用	1	施策Ⅰ-1 実施回数 アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 演劇ワークショップ実施 (県事業) (1年) 防犯講話実施 (高山警察署出前講座) 性に関する講話 (高山赤十字病院医師) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 適切なシカケの機会を提供できた (年3回) 生活上の注意点を認識、倫理観を醸成した (各1回実施) 		
	地域や異校種と連携・協働した活動の推進	1	施策Ⅰ-1 交通安全、環境美化 挨拶、異校種交流	交通安全、環境美化 挨拶、異校種交流	<ul style="list-style-type: none"> MSI「グーズ」生徒会による地域貢献活動の実施 (地域清掃活動、交通安全運動、青少年街頭啓発活動参加) 異校種交流の実施 (飛驒特支日赤分校、近隣小学校との交流) 	B		<ul style="list-style-type: none"> 社会的役割を担う経験を通して自身の責務を知り使命感の醸成と成長に繋がった 立場の異なる相手を理解し、配慮しながら交流する姿勢が育まれた
	スクールカウンセラーや外部機関と連携・協働した支援	3	施策Ⅰ-3 実施回数、参加人数 実績	実施回数、参加人数 実績	<ul style="list-style-type: none"> 職員間情報共有方法の確立 (最善化) いじめ防止等検討委員会の確実な実施 個に応じた支援、個別の支援計画の活用 支援員、SC、S相、通級 (他校型) 活用 	A		<ul style="list-style-type: none"> 組織的連携による校内支援体制が強化された 共感的、組織的な支援が実施できた SC (昨年度並み)、通級スタート
進路指導	キャリアパスポートを活用した能力や適性理解支援	13	施策Ⅱ-13 キャリアパスポート活用状況	キャリアパスポート活用状況	<ul style="list-style-type: none"> 適性検査、模擬試験 (進学・就職・公務員) を実施 (全学年) 高工キャリアパスポートの作成と活用 (適性検査結果、模試の記録、学校行事の記録を蓄積) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 言語化することにより生徒は自身のメタ認知を促進できた 連続した進路支援の為に高工キャリアパスポートのさらなる活用 	B
	地域の産業界や関係機関と連携した進路支援の実施	13	施策Ⅱ-13 関連活動実施状況 生徒アンケート 21 [95%]	関連活動実施状況 生徒アンケート 21 [95%]	<ul style="list-style-type: none"> 地域の外部人材を活用した技能教育 キャリア形成を見据えたインターシップの実施 産業現場実習の実施 (3年) (建築5名、家具製作4名) 過去最高の求人社数、求人人数 	A	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業受講、地域の工業系施設見学 就業体験 (2年生全員) (2日間) 産業現場実習の学びが就労に繋がった 求人社数1470件、求人人数2894名 生徒アンケート 21 [86%] 低学年からの進路意識形成支援 	
	生徒会活動や部活動、検定や高度な資格取得、体験型研修への積極的な参加啓発	10	施策Ⅱ-10 部活動加入状況 資格取得状況	部活動加入状況 資格取得状況	<ul style="list-style-type: none"> 高度な資格取得のための補習実施 部活動見学実施方法の工夫と担任による丁寧な声かけによる高い部活動加入率 活発な生徒会活動 (運動会競技・応援合戦の改善、下校時の服装の検討、社会の活性化、地域清掃活動の実施等) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 離脱資格取得 (電気工士1種等) や高い合格率 (二級建築管理技術士補 (合格率63%)) 部活動加入率 (1年82%、2年79%、3年84%) ゼンネスグランプリ 全国Best100選出 田出場 (陸上競技部)、東海ものづくりコンテスト出場 (旋盤部) 	
	進学指導の充実	10	施策Ⅱ-10 ガイダンス等参加状況	ガイダンス等参加状況	<ul style="list-style-type: none"> 進学に関する個別支援 (進学対策講座、個別指導、面接指導) 実施 進学版卒業生と語る会の実施 校内進学ガイダンスの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 充実した個別学習指導の実施 「スタディーサプリ」を活用した進学対策学習 進学ガイダンス参加率96.4% (3年) 低学年からの離脱大学進学支援 	

<p>来年度に向けての改善方策等</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合工学科群の教育目標達成の為、学科間の連携を取りながら学習活動を準備・実施 地域産業の担い手育成を目的とした県の研究指定事業を活用し、外部と連携した協働的な活動を充実 授業改善の仕掛けづくり (公開授業・実物を見せるなど展開の工夫) 課題共有を図り、チームによる生徒支援を実施 離脱進学や公務員等、DX等を活用した進路支援の在り方や方策について検討し実践 LHRの充実と生徒会行事の改善 (探究的視点を追加) 体調の自己管理能力の育成 	<p>実施日: 令和8年1月31日</p> <p>学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 早期からの具体的な進路支援について、特に来年度1年生は秋に学科選択があるため入学初期から進路面談を重ね、より一層支援に力を入れてほしい。 若い人の精神的な不調が非常に増えている。就職後の「生き方指導」をどうするか重要になっている。学校は「まっすぐ目標に向かう場所」ではなく、「まっすぐ失敗を経験し、乗り越えることで力をつける場所」だと思う。失敗を乗り越える場を意図的に設定してほしい。 健全なアルバイトで働く経験は、社会性やコミュニケーション能力を身につける良い機会になる。 更に義務教育の生徒と高校生、大学生そして地域行政や企業が交流し、キャリア教育を進めたい。 	<p>実施日: 令和8年1月31日</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------